

## ■ 本文

※例文は学習用に作成しています。

- ① 昨日、都より文(ふみ)し来たりて、母の安否を知りぬ。
- ② 春の野に出でてし人は、夕(ゆふ)べになりても帰らず。
- ③ 山の端(は)に入りし月を、なほ惜しと見送りけり。
- ④ この花の色こそ、いと美(うつく)しけれ。
- ⑤ 旅の空にて、ふるさとぞ恋しかりける。
- ⑥ 風だにし吹かば、舟をば出ださむと待つ。
- ⑦ かの人の詠みし歌、今も人の口にあり。
- ⑧ 夜(よ)もすがら降りし雨、暁(あかつき)に晴れたり。
- ⑨ 山里は冬こそ寂(さび)しさまされ。
- ⑩ 一人し居れば、夜の長きこと限りなし。
- ⑪ 我が思ふ人に逢ひし夜は、いと短く覚えき。
- ⑫ 都にて見し桜を、この里にても尋ぬ。
- ⑬ 君が植ゑし松の、今は大きになりけり。
- ⑭ 名にし負はばいざ言問はむ、と歌に詠めり。
- ⑮ かばかりしつらき世を、なほ捨てがたく思ふ。
- ⑯ 暮れし秋を惜しみて、人々歌をぞ詠みける。

## ■ 設問 (全24問)

1. 傍線部①「し」の文法的説明として正しいものを、次から選べ。  
ア 過去の助動詞「き」の連体形 イ 形容詞の活用語尾 ウ 副助詞 エ サ変動詞「す」の連用形
2. 傍線部①を含む一文「昨日、都より文し来たりて、母の安否を知りぬ。」を現代語訳せよ。
3. 傍線部②「し」が過去の助動詞「き」の連体形であると判断できる根拠を答えよ。  
直前の語「出でて」の活用形に着目すること。
4. 傍線部③「し」が過去の助動詞「き」の連体形であることについて、次の二点を答えよ。  
(1) 直前の「入り」は何の活用形か。  
(2) この連体形「し」は、下のどの語に連なっているか(被修飾語を抜き出せ)。
5. 傍線部④「し」が形容詞の活用語尾であると判断できる根拠を、語の構成に触れて答えよ。
6. 傍線部⑤を含む一文「旅の空にて、ふるさとぞ恋しかりける。」を現代語訳せよ。
7. 傍線部⑥「し」が副助詞であると判断できる根拠を、「取り除く」という観点から答えよ。
8. 傍線部⑦「し」が過去の助動詞「き」の連体形であることについて、下に連なる体言を本文中から抜き出せ。
9. 傍線部⑩「し」が副助詞であると判断できる根拠を、「取り除く」という観点から答えよ。
10. 傍線部⑪「し」が連体形であることを、下に来る語(体言)を示して説明せよ。

11. 傍線部⑫を含む一文「都にて見し桜を、この里にても尋ぬ。」を現代語訳せよ。
12. 傍線部⑬「君が植ゑし松」を、「し」の働きが分かるように現代語訳せよ。また、ここでの「し」の文法的名称を答えよ。
13. 傍線部②「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
14. 傍線部③「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
15. 傍線部④「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
16. 傍線部⑤「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
17. 傍線部⑥「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
18. 傍線部⑦「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
19. 傍線部⑧「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
20. 傍線部⑨「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
21. 傍線部⑩「し」の文法的説明として正しいものを、①の選択肢ア～エから選べ。
22. 傍線部⑭「名にし負はば」の「し」の文法的説明を、①の選択肢ア～エから選び、あわせてこの「し」を取り除いた形を示せ。
23. 過去の助動詞「き」の連体形「し」は、活用語のどの活用形に接続するか。漢字三字で答えよ。
24. 傍線部⑨「寂し」と傍線部⑤「恋し」は、ともに同じ活用の種類の形容詞である。その活用の種類を答えよ。